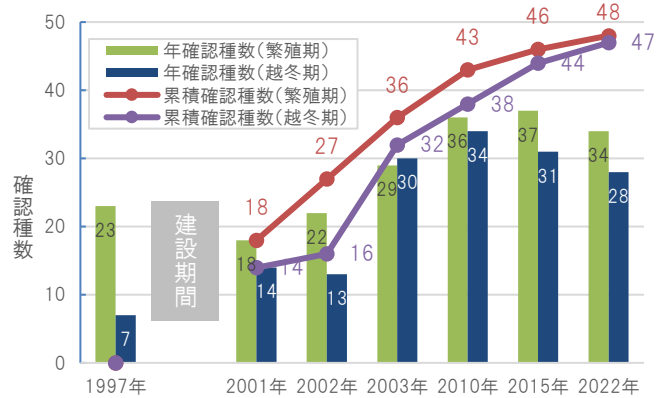


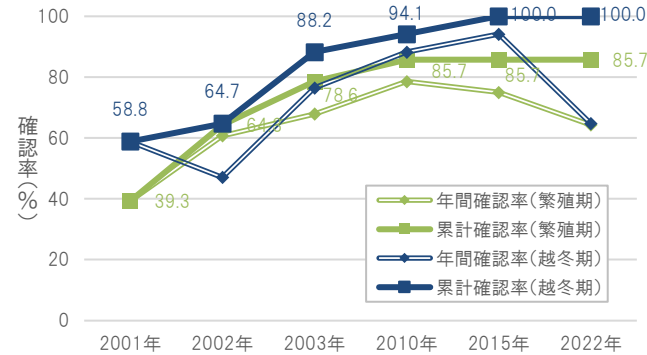
鳥類

鳥類確認種数の推移



- 確認種数の推移は上昇から安定に変化してきている。
- 新たに繁殖期2種、越冬期3種が記録され、累積確認種数は今後も伸びる可能性がある。

誘致目標種の達成状況



※誘致目標種は、建設計画段階に計画地および周辺の鳥類調査結果に基づき、専門家の知見をもとに設定したものである。

- 年間の達成状況は低下傾向にあるものの、累積確認率では繁殖期で85.7%、越冬期では100%となっており、目標とした鳥類の生息環境を概ね創出できたと考えられる。

繁殖が確認された種



チコハヤブサ（幼鳥） ニュウナイスズメ ホオアカ アオジ（雛）

重要種



ハイタカ オオアカゲラ

環境省RL：準絶滅危惧 (NT) 北海道RL：情報不足 (Dd)
北海道RL：準絶滅危惧 (NT) 札幌市RL：留意 (N)
札幌市RL：準絶滅危惧 (NT)

- この他ホオアカを含め計3種の重要種が確認された

初記録の種

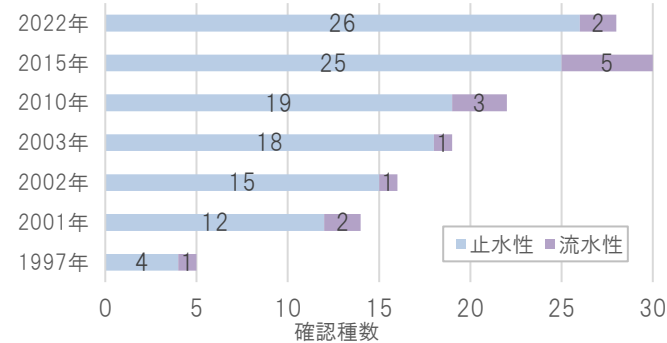


ダイサギ ミヤマホオジロ

- この他にチョウゲンボウ、エゾセンニュウ、オオアカゲラの合計5種を新たに確認

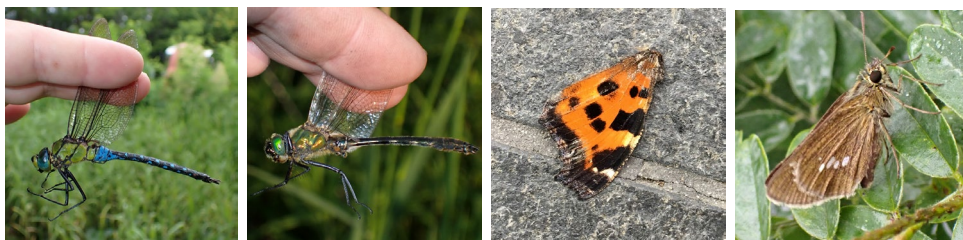
昆虫類

トンボ類確認種数の推移



- 2022年は28種、累積では39種が確認された。
- 水生植物群落の存在がトンボ相の多様性を支えており、止水性種は緩やかながら増加傾向にある。

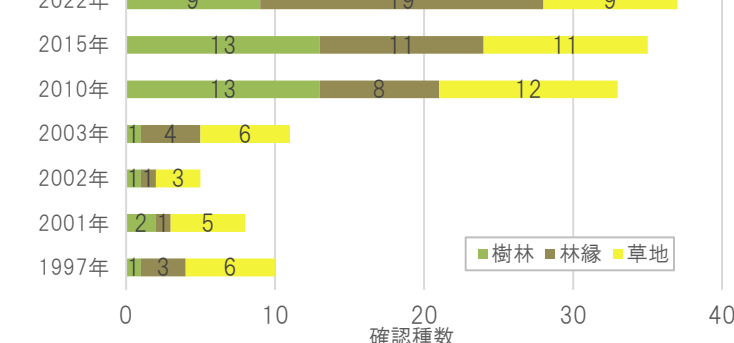
初記録の種



クロスジギンヤンマ カラカネトンボ ヒオドシチョウ（右前翅） オオチャバネセセリ

- トンボ類は他にアオヤンマ、オオトラフトンボの合計4種が初記録。
- チョウ類は他にアカシジミ、ヤマキマダラヒカゲの合計4種が初記録。

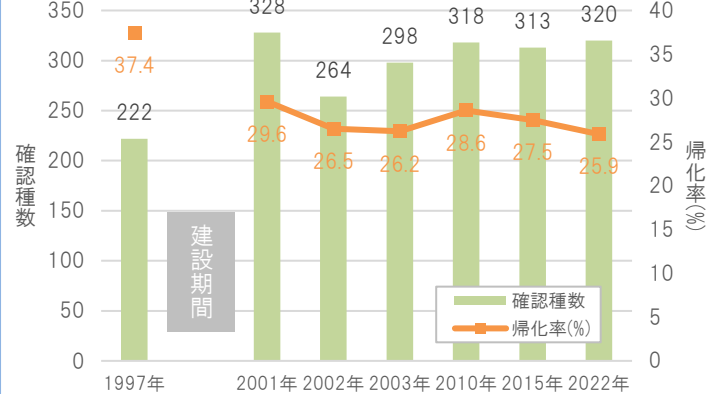
チョウ類確認種数の推移



- 2022年は37種、累積では49種が確認された。
- 隣接する緑地からの飛来供給や、林縁種が増加していることから、累積確認種数は増加傾向にある。

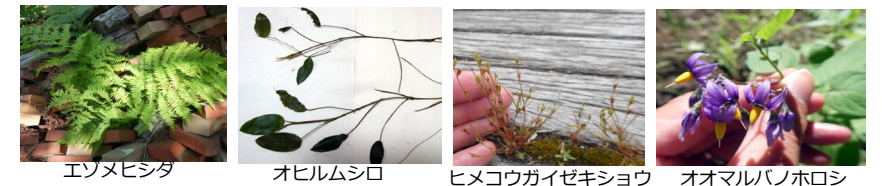
植物

植物確認種数の推移



- 確認種数は320種で、2001年に次いで多かった。
- 帰化植物の比率（帰化率）は依然として高めの値ではあるが、緩やかな減少傾向にある。

初記録の種



エゾメヒシダ オシムシロ ヒメコウガイゼキショウ オオマルバノホロシ



ヤブジラミ タマシキクサフジ（帰化植物）

- 上記を含め合計29種の植物が新たに確認された